
トラブルメーカー

桂井 歩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トラブルメーカー

【Nコード】

N6396Z

【作者名】

桂井 歩

【あらすじ】

ヤクザの4代目になった高校生の立花^{たちばな} 海斗^{かいと}3代目である父親を癌で亡くし、若頭として組をまとめるが、普段は高校2年生の至って普通の少年、しかし彼がいく所はいつだって不良との喧嘩が絶えなかった、ある日の同じ学校に通う3年生に放課後に廃墟に呼び出される海斗の前に、人質に捕られた幼馴染の亜美の姿、亜美をその場から逃がし喧嘩する海斗を1人がバットで殴る、怖くなった3年生達はその場から逃げ去ってしまう、遠のく意識の中で聞こえる少女の声『ルータスの血を引く者よ、今こそ世界救済に立ち上がる時

が来た』

目が覚めた時、そこに広がるのは知らない場所だった。異世界に召還された海斗を待っていたのは魔物を軽々と倒す謎の騎士、そして氷に閉ざされた少女との出会いと闇に魅入られた魔族との戦い、元の世界に戻る手がかりを探す中で知る事になる自分に隠された出生の秘密、世界を救うという途方もない試練を与えられた時、海斗はその運命に立ち向かう事を誓う。そして元の世界に戻る事は出来るのか…？

プロローグ

森の中にそびえる大きな屋敷、広大な敷地内のある大庭には沢山の人が、テーブルを囲みおしゃべりに明け暮れている、そこに集まった人々の姿は高貴な貴族達と呼ぶのが相応しいだろう。

高価な指輪をいくつもはめた女性は扇子で顔を半分隠しながら、グラスに残ったワインをぐつと飲み干すと、隣にたたずむ男性を見つめる。男性は女性の視線に気がつかないのか、それとも何か考え事をしているのか、女性には見向きもしないまま、ずっとその場から離れると女性は小さく舌打ちをする、どうやら今日の相手を探していたようだ。

ダークスーツに身を包み、銀髪の手が少し風になびく、その容姿は世の女性であれば誰もが振り向くほど、整った顔立ちをしている、100人の女性がいたら100人が付き合いたいと思う男性といえるが、まあ外見だけでは相手を判断するのは難しいが、容姿だけで言えば完璧といえる。

女性の元から離れ、庭へと出る屋敷の入り口の前に置かれた椅子に腰掛けると、2階にあるテラスを見つめる、ふと彼の耳に流れる音楽が心地よいのか、目を閉じて演奏を聴く。

今この空間でこうやって音楽を聴いているのは彼だけだろう、庭に響く静かな音楽は周囲の会話によりかき消される、しかし演奏家達には決して演奏をやめようとは思わない、意味の無いと思われるが彼らには意味がある、演奏するだけで彼等には膨大な報酬金が支払われるからだ。

庭の中央で特に目立つ2人の男女の姿、その場に集まったどの貴族達よりも、貴族らしい振る舞いをし格の違いを見せ付けている。彼等はこの屋敷の持ち主であり、この森の周辺も彼等の所有物であり、名門と呼ばれるほど数多くの天才を世に輩出してきた、名門中

の名門である『クロル家』

そしてクロル家の当主夫妻は今、今夜行われる娘の誕生パーティに来賓された客人の相手に、休む暇なく各地方の貴族達に挨拶周りに忙しかった。

その頃、今夜の主役であるクロル家の長女のエリアスは、普段から着ないドレス選びに時間が掛かっていた、彼女の部屋に色とりどりのドレスを持った家政婦達がやってくるが、彼女の好みに合わないらしくどれも却下される、次から次にドレスを持ってきては却下される、家政婦達は鏡の前でドレスを身体に合わせるが、エリアスは顔を縦には振らない優柔不満ぶりを炸裂、まったく持って扱い難い、その様子を呆れて見ている妹のルンは、ベットに置き去りにされたドレスを手に取りながら、姉を見て一言

「お姉様そろそろ本当に決めて行かないと、お父様に怒られますよ……ただでさえ『これだけの客人が来てるのに、待たせるなんて名門の娘として恥を知れ』っれ」

「それ、あんまり似てないよルン、そんな事いつたって仕方ないでしょ、どれ着たらいいかわかんなんだもの、ねえルンはどれがいいと思う」

「私に聞くの、そうね」

ルンはドレスを見ながら、一着のドレスを指差すとこれが良いわと言って持つてくる、それは真つ赤なドレスでここにあるどれよりも目立ち、華やかでありまさに今日に相応しいとルンは言い放つ、なんせ今日は誕生パーティであると同時にエリアスの婚約発表も控えていた、世間の者達からは『じゃじゃ馬娘』と言われ続けた名門家の娘の、一大イベントにこれほどの貴族が集まったのは、好奇心とどこの骨の馬とも知らず、名門家のお嬢様に手を出した男を見たいが為、このパーティに参加している者達は、名門家が名門でなくなる瞬間を楽しもうとする連中ばかりといえる、名門と言っても敵が多いのは仕方ない事であらう、人は自分よりも優れた者に劣等感を

覚え、その者が屈した瞬間が何よりも好物なのだから…しかしその期待はある意味裏切られる形となる。

「こんなドレス着れる訳ないじゃない、こんな真っ赤なドレスなんてきたらそれこそいい笑い者よ、駄目よ駄目…絶対に駄目！」

「あの人はきつといい顔すると思うけど、だってお姉様の事本気で愛してるみたいだし」

その言葉を聞くと頬を真っ赤にし、顔を両手で覆い隠し恥ずかしがるエリアスにルンは家政婦達に、赤いドレスを指差しこれにしてと伝える、決めてしまえば後は早い。

「覚えてなさいよルン、このお返しは絶対にするからね」

「はいはい」

ルンはくすくすと笑いを抑えながら部屋を出て行く、鏡の前に立ちドレスを着せられるエリアスは、悪態を吐きながら、鏡に映るルンの後ろ姿を見送る。

「エリアスはまだなのか、客人を待たせるなどあればど言っておいたのに」

「貴方まあ、そうおっしゃらずにね、どうやら準備が出来たみたいよ、ほら」

妻が夫をなだめると庭へと出る扉がゆっくりと開け放たれる、夫婦と客人の前に姿を見せたのは、真っ赤なドレスに身を包んだ名門家のお嬢様の姿、その場の誰もが驚愕するのを尻目に夫は自信に満ち溢れた顔を見せる、その手を握る妻の冷え切った手を強く握り返す。優雅に決め込んだ彼女の前に跪く男性の姿に先程、男性を誘惑して失敗した女性は、驚きを隠せないでいた、男性はエリアスの前に手を差し伸べると、優しい口調で彼女に言葉をかける

「美しいよエリアス」

「ありがとう」

エリアスは男性の手を取ると男性はすつと彼女の手の甲に口付けをする、そしてその場に立ち上がりエスコートをしながら、客人達の

間を進み夫婦の元へと歩く、その場の誰もがこの男女に釘付けになる。

貴婦人達は羨ましいという顔をしながら、自分達の夫を見ながら悪態をつく、出されたワインと豪華な食事に貪る見るも無残な姿をした、夫と名門家のお嬢様の相手の男性、比べても仕方ないと解っているが、悔しさと嫉妬が渦巻く。

「間違えるような美しさだよエリ阿斯、そして…」

父親はエリ阿斯を褒め称え男性を見ると、彼の手を取り頭を下げると娘を頼むというそんな素振りを見せる、男性は父親の肩にそっと手を当てる、父親はゆっくりと顔を上げ大きく頷くと男性は自信に満ち溢れた目で見つめ、小さく会釈する。

その場の全員がグラスを持ち上げ、今日という祝い事を祝福する、名門家の当主はグラスを誰よりも高く掲げ、言葉を発する

「この素晴らしい今日という日を決して忘れないでほしい、それでは将来の2人を祝して乾杯」

そして、当主の言葉は違う意味で忘れられない1日となってしまふ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6396z/>

トラブルメーカー

2011年12月21日15時46分発行